

経済関連事業者との市長と語る会

1. 日時 令和4年7月29日（金） 18:00～20:30
2. 場所 瑞浪商工会議所2階ホール
3. 出席者 瑞浪市長 水野 光二

マスターズクラフト(株)	五嶋 久年
アスゲン製薬(株)	水野 昌樹
(株)深山	松崎 英之
(株)アフィニティ	小池 誠
(有)白山	中山 研吾
(株)日吉ハイランド 日吉ハイランド倶楽部	小栗 大樹
さかえや化粧品店	遠藤 俊哉
(株)カネ大白木屋	渡邊 大輔
明治安田生命保険相互会社	福永 泰子
瑞浪商工会議所	小島 博和

<瑞浪市>

三浦正二郎（経済部商工課長）
加藤 昇（総務部企画政策課長）
津田 良介（総務部企画政策課企画政策係長）

(あいさつ)

参加者 第7次瑞浪市総合計画の策定に向けて議論が行われているとの事だが、商工関係者と話す機会もなく、どのように施策に反映されるのか疑問。審議会として商工会議所の方も委員として入っているが、やはり各業界と直接対話する機会が必要と考える。

瑞浪に足りないのは、議論であると考え。そのように思い、本日の語る会を、商工会議所を通じて設定いただいた。

まずは、第7次瑞浪市総合計画の策定に向けた、市長のビジョンを聞かせていただきたい。

市長 7次総は、基本構想、基本計画を令和4年度、5年度かけて完成させる。令和5年9月議会で基本構想、12月議会で基本計画の議決をいただく予定としている。本日の語る会だけでは、意見・討論は完結しない事だろうと思う。このような会を何回か行い、皆様の意見や想いを聞かせていただきたい。

7次総策定に向けての課題は、若者の雇用確保である。瑞浪市で育った若者が外へ出ていってしまうことは残念で、何とか瑞浪市内で働いてもらいたい。

企業誘致については、6次総計画下で力を入れてきた。クリエイションパークではすべての区画が埋まり、その他釜戸中、旧陶小は有効活用として企業に進出いただいた。まとまった用地はもう瑞浪市にはなく、大きな企業を誘致することは困難となった。

こうした背景から、7次総では次の点をどう位置付けていくのかを考えていきたい。

- ・企業支援では、操業中の企業拡大の支援並びに第2創業を支援していきたい。
- ・農業分野では、6次産業化やまだ可能性にあふれている。
- ・観光分野では、リニア開通はとても意味がある。また、東美濃歴史街道協議会（東濃5市＋可児市＋御嵩町で構成）では横の連携をとりながら事業を展開していきたい。

これに加え、産業界で頑張ってみえる皆様の取り組みや今後、どのようなことをしていきたいのかを伺いながら進めていきたい。

基盤整備については、市がしなければならないことであり、責任をもってやっていきたい。そして皆様には、その基盤を活用して企業戦略を立て、事業展開していただきたい。

参加者 パッケージ製作の会社を経営している。

陶磁器産業の出荷額、生産額が著しく減少し、衰退しつつあった時代に、それを支援したり、代替する施策が弱かったと思っている。地場産業が潤うことで我々のような業者も潤う。輸入品ではなく国産品を支援してほしいため、陶磁器業界の支援をお願いしたい。

市長 陶磁器業界への支援として、特に大きかったのは、「みずなみ焼き」のブランド化。世界にPRするため、フランクフルトでの国際見本市など、20年にわたり支援させていただいた。

最近では、陶磁器の原料が枯渇してきたが、未だこの地域にも良質な原料があるので

はないかとの発想から、調査を進めている。調査の結果、発見された資源をどう使うかは、業界の方々に引き継いで検討していただきたい。

参加者 瑞浪陶磁器工業協同組合は、市内に12社あるが、これからの考えると間違いなく減っていくだろう。

M&A（合併、買収）も選択肢としてはある。設備投資には、膨大なコストがかかる。これまでも助成金はあるが、何か新しいきっかけはないか、投資に対する支援を検討していただきたい。

市長 M&Aの話は、近年、個人店にまでも及んでいると耳にする。どういう支援があればM&Aがうまくいくのかを業界にお聞きし、一緒になって考えていきたい。特に近年、資材が高騰し、設備投資がしづらい部分があるが、新しい設備に変えていかないと、後継者不足にもつながっていくため、難しい問題である。過去、補助金は業界全体向けの趣旨のものが多かったが、近年では国、県が直接企業に支援する例もある。ただ、補助金全体に言えることだが、申請期間が短く、活用したくても間に合わないという事も現状がある。国や県には、このような実情を伝え、申請期間を長く設けてもらえるように日頃から要望しているところである。

参加者 商工会議所で申請の支援をできないか。

商工会議所 皆様と一緒に考えていきたい。

参加者 申請業務を委託するという方法もある。

参加者 コロナ禍の支援メニューについて、多治見市、土岐市の方から情報を得た。瑞浪からはその情報が全くなく残念。情報発信の体制を整備してほしい。

市長 多治見市や土岐市の事業者の情報収集の方法を聞いていただき情報をいただけると嬉しい。市でも限りある予算の中で、施策を考え、展開しているが、国・県の補助金が見込まれる事業については、優先的に事業決定をするスタンスでいる。

参加者 ビジサポメールというのがあり、市商工課が窓口となって、補助金の情報も含めてこのメールを通して情報発信していただいている。岐阜県産業経済振興センターのメルマガでは、ほぼすべての補助メニューが紹介されている。私の事業所でも補助申請をいくつかしているが、国の補助メニューは、条件が厳しいものが多い。その部分を市で支援をしてほしい。また、事前にこんな補助メニューが今後に立ち上がる予定という情報をいただければ、申請に向けて準備ができるので情報提供をいただけるといい。

参加者 ゴルフ業界はコロナ禍であるが、最近では若干上向きの傾向となった。

瑞浪市はゴルフのまちとして謳っているが、その取り組みは弱いと感じる。

兵庫県三木市は、25カ所ものゴルフ場があり、市に「ゴルフのまち推進課」があり積極的な姿勢である。また、可児市でもゴルフのまち可児と謳って、取り組みに積極的である。瑞浪市でももっと推進していただきたい。

市長 ゴルフ場利用料は、過去年間4億円あったものが、現在では年間2億円を下回るようになった。ただ必ずしも利用人数が減っているわけではなく、利用料金に寄与する部分が多い。

三木市の取組は、以前より参考にさせていただいている。

瑞浪市においても、実のある事業を展開していきたいと思う。

参加者 稲津⇔陶⇔豊田市の道路はきれいに整備され、その方面からの需要には期待している。

山五陶業を弊社で買収させてもらった。その横にも500坪ほどの土地がある。

稲津町、陶町には宿泊できる場所がない。市の方でこの土地で宿泊施設や飲食店を誘致してもらえると、観光で見えた方を、滞在させられると思うのでなにかできないか。

市長 陶町に希望ヶ丘という団地があり、約300もの区画のうち100区画くらいが埋まっている状態。豊田市への通勤者などに便利な立地である。500坪の土地があるとの事だが、県や各企業など、いろんな面から土地がないかの相談があるため、ぜひ一緒になって考えていきたいと思う。また、空き家・空き地バンクにも登録いただけるといい。

参加者 先日開かれたスナッグゴルフを自身の子が体験をさせてもらった。とても興味をもちまたゴルフをしたいと言っていた。親としては、ゴルフ料金は高額で、子どもに通わせるには厳しい面がある。市民向けに何か支援するなどできないか。

参加者 ゴルフ連盟のジュニア会員となれば、ジュニアチケットという仕組みがあり、比較的安価になる。また、ゴルフ場によるが、瑞浪市民の利用料金の差別化を図っているゴルフ場もある。

ゴルフ業界の問題として、企業の進出により各ゴルフ場の足並みを揃えるのが難しくなっている。ゴルフのまちみずなみ実行委員会のメンバーをみても、3人しかゴルフ場経営者がいないという構成になっている。ゴルフ業界全体の足並みを揃えることが盛り上げるうえで必要であるので、商工会議所にぜひ支援をいただきたい。

商工会議所 私共も実行委員会をもっと盛り上げていきたいと考えている。現在、実行委員会には、瑞浪市より200万円の支援をいただいている。さらに盛り上げるために、また、担当者の負担も鑑みて、もう少し金額を乗せていただきたい。

市長 三木市、可児市の状況も参考にしていきたい。

参加者 企業誘致に関連して、今後誘致できる土地はないとの事だが、従業員〇百人の事業所を求めているというようなビジョンは具体的にあるのか。

例えば、〇百人の事業所×1社という目標あるとして、それが〇十人の事業所×10社という目標に置き換わるならば、大規模な用地がなくとも実現できるのではないのか。

市長 それならば可能な面もある。小型、中型の企業の誘致は進めていきたい。

新たな事業チャレンジ支援補助金では、令和3年度までに45者がこの補助金を活用されて、創業してみえる。しかし、複数の雇用が生まれにくい店舗の操業の実績が多く、もう少し制度の見直しを図っていく時期にあると考える。少なくとも10~20人雇用が生まれるような事業に対する支援に切り替えていかないといけない。やはり市としても補助金を交付する以上、その見返りにも注目して、雇用UP、市税UPを注視していく必要がある。

参加者 昔からこの地に住んでいるが、昔の駅前商店街の方が面白かった。現在進んでいる駅周辺再開発の検討にあたり、若い方も参加できるような機会を設けていただき、ぜひ駅前に出店したいと思えるような計画をしてほしい。また、学生が集えるような駅前になることも期待する。

市長 駅南においては、商店街の皆様を中心に組合を設立している。商店街は、住居と店舗が一体となっていることが多く、なかなか貸し借りが厳しい場面もある。まだ、どういった形がいいのかの検討はこれからである。駅周辺再開発の事例は多数あるが、上手くいっていない例も多い。現在は、Mビルやゑびす屋を活用した取り組みを通して実証実験を行っている。瑞浪市の駅前には、都会にあるような大規模なビルは必要ないと思っている。瑞浪駅周辺再開発事業を通して、事業区域外の周辺地域にもイノベーションが起ころのではないかと考えており、この事業が地域活性化の起爆剤となることを期待する。事業区域外の皆様も決して関係ないと思わないで積極的に参加いただけるとありがたい。

参加者 施策は、何かに特化すべきである。広く浅くでは効果は薄い。

私はPTA連合会の会長を務めさせていただいているが、会員の話の中でも、子育てがしづらいとの意見が多い。この世代への特化した施策をしていただきたい。

先日、子どもと一緒に山県市のレトロミュージアムを訪れたが、とても楽しい空間だった。瑞浪市ではそれほど開発が進んでいるわけでもなく、釜戸駅は特にレトロと言える。釜戸駅で何か実証実験をしてみると面白いのではないか。また、釜戸町では自転車でサイクリングする人を多くみかける。こうした層を対象とした施策もいいと思う。

市長 子育ての支援において、市内全域を均等に行うというのは難しい面もあるが、市とし

でも最低限格差のないサービスを提供する必要がある。困っていることがあれば、7次総の策定を待たずとも、事業を考えていきたい。また、自転車で来訪している層についても、瑞浪市の環境はとても素晴らしいものと自覚している。魅力を発見していきたい。

参加者 瑞浪クリエイションパーク企業連合会でも、市に対して要望させていただいている。区画は埋まり、事業は進んでいるが、クリエイションパークに対しての更なる支援についてお伺いしたい。

市長 市からも企業連合会様には草刈り等のお願いもさせていただいている。駅までが遠回りとなっているという要望とパーク内に信号を付けてほしいとの要望をいただいている。駅までの遠回りの件は、現在、国道19号線の旧モスバーガーの交差点からクリエイションパークに向かう上平5号線の整備にかかっているため、アクセスは良くなるはず。信号の件については、警察とも協議中であり、もう少しお時間をいただきたい。

参加者 従業員を抱える企業をどう守り、どう伸ばしていくのかを7次総に向けて考えていただきたい。教育、働く場所は大事。どう働く場所を作っていくかを強く訴えたい。先日、岐阜県選出の野田大臣が「イノベーション for SDG s」と謳ってフォーラムを開催した。本気の地方創生を進める上で、各自治体は、企業や大学、地域団体と連携して、地域産業の活性化を進めるべきと訴えている。岐阜県選出の大臣がこのように言っていることから、瑞浪市でも、これに関連して何かを行えないかと思う。

市長 ご提案は、7次総に位置付けていきたい。国の情報に沿った方法で、チャンスをつかんでいきたい。教育面では、市内に高校が3つ、大学は1つと、これ以上ない環境が整っている。教育の選択肢があるこの環境は魅力であり、7次総においてもさらに高めていきたい。

参加者 私も教育はとても大事であると思う。教育に満足ということは決してない。教育がしっかりできると、その教育を受けた人々が地元で働き、産業も整うはずである。また、特殊な能力・技術を身に着けるための、インターネットで受講するような教育にも支援をいただけるといい。

参加者 市長は、誘致できる用地がなく、誘致は完了との事だが、誘致は物理的に無理なのか？コスト的なものなのか？雇用問題は大変苦しい状況。焼物業界は所得水準を上げるのは難しい。地域の所得水準を上げるためにも大企業を誘致するのは、起爆剤としての意味があるのではないか。

市長 クリエイションパーク以外の大規模な誘致先は他にないのか、検討してきた。釜戸、稲津、月吉、小田など。どこも果たしてこの場所で企業が来ていただけるのかを検討し

で断念した。生活の木のように農地を用地に変える方法はある。山を切り開いて用地を作るには、10年以上の期間と莫大なコストがかかる。できないことはないかもしれないが、今ある企業を支援していくことを優先に考えさせていただいている。

参加者 農業の推進では、地元の食材を給食センターで使ってもらうことで、出荷先はまとめて契約でき、新規就農の増加、既存農家も安定するのではないかと。今ある施設をどのように活用するのかを考えていくといい。こうした取り組みについての講演会が開催されたので、ぜひ紹介させていただく。

市長 既に学校給食では、地元の野菜や瑞浪ポーノポーク、日吉味噌などを提供している。また、すべての学校ではないが、近所の出荷農家を訪問して食育体験を実施している。学校給食で使用する量に対応できる農家がないのも現状。食育は、学校だけでなく家庭でもできることもあるので、家庭でも推進していただきたい。

<まとめ>

参加者 商工会議所と市でどこまで連携ができていないのか、分からないが今後も我々への支援を強く要望する。中小企業・小規模企業振興条例には正直納得していない。このような会議は、これで終わりではなく、継続して続けていきたい。商工会議所を通じてこのような会を設けてもらいたい。

瑞浪の企業はなかなか大きくなる。これはなぜか、なぜ伸ばせられないのか。これを解決しないと何も変わらないと思っている。これをみんなで考える必要がある。

<まとめ>

市長 市もできる限りの支援をしていくが、窓口の商工課はその職員が経営のプロでないことは分かっていたらいい。やはりプロである企業の皆様に事業を提案していただき一緒に考えていきたい。

行政として、やらなければならないことを見極めて実行していきたい。